県 名 由来

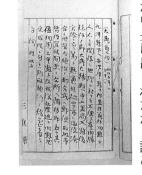
いのではないか」との問い合わせがあった。 「三重のまがり」という伝説によるということが正解とされた。これについ テレ ビの クイズ番組で三重県の県名の 由来が問題となり、 『古事記』に記される日本武尊の て一般の方から「おか

県庁は、 を理由に挙げている。 県庁移転願を大蔵省に提出した。 年の第2次廃藩置県で、 県名の由来は、三重郡四日市町(現四日市市)に県庁が置かれたことによる。 津大門に置かれたが、 現県域は安濃津県と度会県となった。 初代安濃津県参事 (知事に相当) 津は地理的に不便で、 四日市の方が交通や郵便などの便が良いこと 現県域の北半分を管轄した安濃津県の の丹羽賢は、 72年2月に四日市へ $\begin{array}{c} 1 \\ 8 \\ 7 \end{array}$ 1 (明治 \mathcal{O}

県が所蔵する「三重県行政文書」の中の 被改候様仕度」とし、 この資料は国立公文書館所蔵の 県庁所在地の郡名を用いて三重県に改称してほしいと明記されてい 公文録に収められてい 『三重県史稿』でも同様の内容が記されている。 . る。 それによると「郡名ヲ其儘相用三重県 る。 また、

廃藩置県の時など当初の県名は、 廃藩置県までの度会県出張所を充てていた。今の四日市市立中部西小学校の場所だ。 月には太政官布告第85号で安濃津県を三重県と改称し、 県庁所在地の郡名を使うのが一般的だった。 県庁を四日市に置くことが定められた。 四日市に置かれた県庁

進む中、 移庁が認められ、 たことから安濃津への再移転を願い出た。この時、 しかし、 中央に出されたが、 県名と県庁所在地の郡名が一致しなくなる事例が出てきており、 丹羽の後任として県参事となった岩村定高は、 同年12月に津への移転が完了したが、 認められなかった。 県名のことは触れていない。 県名はそのままだった。 四日市の県庁が手狭で職員の宿所にも窮 三重県内からも改称の要望 全国で県の統廃合が 73年8月に政府から



三重縣史稿

治四年

政治之部

『三重県史稿』表紙

四日市への県庁移転 の記述部分

述して周知していきたい 進めている 由来と記しているものの、 こりに関わるとの記述がある。近年の書籍では県庁所在地の郡名を に県が発行した『三重県史』でも、 尊の伝承を村名や郡名とともに県名の由来としている。 では1918 (大正7)年に弘道閣発行の『三重県史』で、 県名の 由来がいつから『古事記』 『三重県史』通史編近現代では、 依然として誤解がある。 一と結び 古事記の伝承が三重県の名の起 ついたの 県名の由来を正しく記 現在、 か。 また、 分かる限 (服部久士) 編さんを 日本武 64 年